

# 第14回 10万人会議

## 今回のテーマ

①南医療生協の医療、介護の現場での看とりの実践を知る

②「あなた自身の考える臨終の場面？」をテーマに意見交換

医療・介護の現場での看とりの実践報告では、老健あんき、かなめ病院



の訪問診療、ヘルパーステーションかなめ、ありまつ訪問看護ステーションより4つの報告を受け、ご本人に寄り添い最期を迎える支援の様子について知ることが出来ました。

グループワークでは「臨終の迎え方について」にぎやかに意見交換が行なわれ、その後10のグループから報告がされました。「山で死にたい」「書斎で死にたい」「自分の死をシミュレーションする。パートナーより後？先？どこで？どんな形で？何歳で」家族だけでなくご近所と沢山つながっている。だからタオル体操！班会、たまり場でお見送り会。

佐久総合病院 色平医師



山本直彦・有松診療所所長からは、まとめとして「看取りは、いずれ近づくと死に対して、主役である本人が心の準備や感謝の言葉の準備をするためのコーディネートが看取りの本当の意味。」と語られ、地域での看取り、まちづくりの大切さを確認しました。

当日は、南生協病院を見学のため来訪された佐久総合病院地域ケア科色平哲郎先生の参加がありました(写真)。参加者は116名でした。